

済生会熊本病院と共同開発

メダップ AI DPCコーディング

適正請求による入院収益の改善と、
限られた人員でも安定したコーディング品質の実現を支援

カルテ記事やEFファイルなどのデータをAIが分析し、主傷病名（6桁）からDPCコード（14桁）までの複数の候補を、根拠と自信度を付けて提示します。診療録と請求情報に基づく適正なコーディングにより、診療の実態を過不足なく反映した請求を支援します。

こんな課題はありませんか？

- ✓ 電子カルテ以外にも判断の根拠が散在し、見落としが生じている
- ✓ コーディングの品質が、担当者や診療科によってばらつく
- ✓ 適正に請求できているかどうかの判断基準がない
- ✓ 熟練者が足りず、全症例を十分にチェックし切れていない
- ✓ 残業・採用難・外注費用の増加などの負担が大きくなっている

コーディングの精度を組織として担保するために、人に依存しない仕組みを。

サービスの仕組み

STEP 1

データの受け渡し

カルテ記事・EFファイル・コーディング対象患者一覧を当社のクラウド環境へ。電子カルテの改修や回線工事は原則不要です。

STEP 2

AIが症例を分析

主傷病名6桁～DPC14桁まで、複数の候補を桁ごとの根拠と自信度を付けて出力します。

STEP 3

担当者が確認・判断

ゼロから作るのではなく、候補を確認して判断。空いた時間を精査が必要な症例に充てられます。

コーディング結果_退院時.xlsx 消化器外科

AIの出力イメージ

候補	自信度	6桁病名	DPCコード	点数	手術根拠
1 推奨	0.78	結腸の悪性腫瘍	060035xx01x0xx	94,280	K719-3が手術記録・麻酔記録と整合
2 要確認	0.56	腸閉塞	060380xx01xxxx	108,640	腸閉塞に対する手術ではなく、施行手術と整合が取れない

※ダミーデータによるイメージです。点数の高い候補を機械的に選ぶのではなく、根拠の整合性で判断できます。

4つの特徴

01 ご契約から約4週間で稼働開始

電子カルテや部門システムとは連携せず、データの受け渡しのみで利用できます。環境構築とデータ授受の調整は当社が主体となって進めます。

02 “トップ病院”基準の精度

済生会熊本病院の三層レビューを経た結果を基準にAIを開発。点数の高低ではなく根拠の整合性で判断できます。

03 「作る」から「確認・判断」へ

AIが候補・根拠・自信度を先に提示。自信度の高い症例は確認が中心となり、詳しい精査が必要な症例に時間を充てられます。

04 病院の規模に合わせた料金体系

年間のDPC退院患者数に応じた段階式。患者数が増減しても、契約期間中の月額が変わりません。

済生会熊本病院との共同開発

当社は2017年の設立当初から、済生会熊本病院と「病院経営の質の強化」を目的とした共同開発に取り組んできました。長年にわたり黒字経営を維持する同院は、DPCコーディングにおいても三層の体制を構築しています。本サービスは、この三層のレビューを経た結果を「正解の基準」としてAIの精度を高め、限られた人員でも同水準の品質を再現することを目指します。

LAYER 1
担当者による
コーディング

LAYER 2
経営企画・医師
によるチェック

LAYER 3
熟練者による
最終レビュー

AIの精度の基準
「正解の基準」
として精度を向上

導入までの流れ・料金

STEP 01

無償アセスメント

貴院の実データで検証し、約2週間でご報告

STEP 02

ご判断

結果をもとに費用対効果を確認し、導入可否をご判断

STEP 03

導入

環境構築は当社主導。契約から約4週間で稼働

STEP 04

運用サポート

活用レクチャーと精度調整で定着を支援

料金 月額 **25**万円（税別）から

年間DPC退院患者数に応じた段階制です。
費用感は、無償アセスメントであわせてご確認いただけます。

1ヵ月あたり10病院まで

まずは無償アセスメントから

貴院の実データで、AIの結果と費用対効果をご確認いただけます。データ受領後、約2週間程度でご報告します。

お申し込み：<https://medup-ai-dpc.jp/assessment>



お申し込みはこちら